

**生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター天竜
担当圏域レベル）開催報告書**

1 開催日時	令和 7年 7月 30日（水） 14時00分 ～ 15時30分
2 開催場所	天竜保健福祉センター 会議室
3 参加者	21名（委員11名、事務局6名、関係機関4名）
4 協議の内容	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 天竜福祉事業所 長寿保険課長</p> <p>3 情報交換・意見交換</p> <p>① 自己紹介、最近関心のあること</p> <p>② 資料を用いて、各地区の昨年度の取り組み状況、今年度の取り組みの共有</p> <p>【春野地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春野中学校の生徒と一緒に「認知症」をテーマに話し合った。学校からは「今後も継続して実施してほしい」と希望があり、今年も実施する。 ・昨年から閉店した商店で、月1回フリーマーケットを開催している。野菜や果物、手芸品、鉢植えなどの即売会を地域住民が自主的に行い、評判が良い。 ・困った時の連絡帳を更新した方がいいのではないか。 ・春野中学校で認知症講座を行ったが、今後、異変に気付いた時にどこに相談すればいいのか知っておきたいという意見があった。 <p>【竜川地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/19盆踊り大会では、若い人たちとの交流ができた。アットホームな雰囲気良かった。 ・小学生の人数が少なくなってきたが、運動会は地域一体となってできている。 ・若い人たちとの交流を大切にすることで、何かあったときに若い人たちに助けてもらう体制をつくることのできるの、少しずつ環境を作っていきたい。 ・支える自分たちが車に乗れなくなったら、他人事ではなくなる。 ・病院がなくなったことが一番の問題と捉えている。 <p>【光明地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が広い、何か企画しても足の問題などで行けない人がいる。 ・困りごとについてアンケートを行い、具体的な支援内容を挙げ活動を行っていくための準備について話し合っている。 ・困った時の連絡帳についていろいろ調整をしている。活用してもらったり、興味をもってもらったりするためにどうすればよいかは今後話し合う。 ・助け合い活動の名前は「ハートフル光明」とし4月からスタートする。 ・ささえあいポイント事業を使える地域と対象外の地域があるが、使えない地域からすると料金面の問題も出てくる。 対象エリアを広げてほしい。

【二俣地区】

- ・困った時の連絡帳について、どうすれば活用してもらえるかなどを話し合った。以前カラーのチラシを全戸配布したが、書いてもらっているか分からない事や、いざという時に活用してもらうためには書き方についても伝える事が必要。
- ・家で1人になってしまい交流ができない人をつなげるためのアイデアを話し合った。きこりでのラジオ体操は定着して毎週木曜日に行っている。またスマホ交流相談会は今年度も計画する。
- ・交流が出来る機会を増やすためにどんな内容なら良いかニーズを民生委員や自治会の協力を得て拾っていききたい。
- ・多くの人が集まりやすい場所を考えた時に、病院の中などにサロンのような場所があると良いという意見もあった。

【下阿多古地区】

- ・昨年度は主に地域の方が気軽に集まれる場所をテーマに、地域内の情報を拾い上げてきてひと通り集約できた。実際に訪問も行って出来たのが40か所入っている資料になる。
今年はその情報を活用した広報紙を作っていきたい。
- ・このような会議の中で出てきた話がより広がっていけば、より面白くなると思う。ぜひ広げていきたい。

【上阿多古地区】

- ・昨年は、関係人口を増やす、交流の場をつくることを中心に進めてきた。
- ・結夢あたと地区社協がコラボして、ボッチャ大会やドローン体験を開催した。
- ・今年はささえあいポイント事業について支援者を増やしていく。
- ・困った時の相談先一覧表について、3年が経過したため見直す。
- ・移動販売2業者から入りたいという連絡が来ている。まだ地区部会では話に出ていないが、今後話に出していきたいと考えている。
- ・地域の事について若い人たちと一緒にやっていきたいという考えがある。

【熊地区】

- ・今まで支えてくれた人、世代がいなくなる時期が来た。
- ・若い世代は子育て、仕事など、いろいろな面で中心となってくるため、地域の活動に参加できない。手一杯になっている。
- ・買い物ツアーについて、徐々に体制づくりが整ってきた。
- ・くまダイサービスの利用者、特に男性が増えている。
- ・最大の地域資源は「子どもたち」。子どもたちがどう思っているのかを聞いてみるのが良い。
- ・第2層協議体の上に第1層協議体があるが、その目的やそこで話し合われている内容について今まで知る機会がなかった。少し説明をしていただければありがたい。

③ 第1層協議体コーディネーターから第1層協議体について説明

- ・居場所づくり、担い手不足、買い物、外出支援は市内22圏域中10圏域以上であがっている課題。
- ・高齢者の孤立、見守り、ごみ出し、認知症に関する事など、地域の実情に合わせた取り組みが行われている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ課題でも地域ごとの背景が違うため、第1層協議体では第2層圏域で行われているニーズ調査や課題、先進事例や具体的な課題分析から多くの地域で生活支援サービスを展開できるような話し合いが行われている。 ・自治連、民児協の会長、静岡大学や聖隷クリストファー大学の教授も有識者として出席した。 ・地域支援課職員より Google マイマップと jSTATMAP の説明→天竜で買い物等支援を考えるとときに活用できるのではないか ・それぞれの地域に合った方法で支援を考えていくこと、本当に需要があるのか、継続してできるかを考えることが大切。 ・客観的な裏付けも必要だが、最終的には地域の生の声も貴重な検討材料になる。 <p>(委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google マイマップに公的施設の誤った情報がのっているのはまずい。逆に載せた方が良い情報がのっていない。 ・Google マップでいろいろなことを検索する機会が増えているため、上手く活用できればその地域のことを知ってもらいきっかけになる。 ・今回第1層協議体と第2層協議体の関係が分かった。またモデル的な活動も教えていただいた。第1層協議体の動きに対して、第2層協議体で行ってほしいことや指針などがあれば継続して教えてください。 <p>4 その他 事業の紹介</p> <p>5 閉会</p>
<p>5 今後の見通し・必要な対応</p>	<p>各地区では地区の中で出された課題に対して工夫された具体的な取り組みが行われるようになってきた。今後も効果的な情報共有や意見交換を通して各地区の活動が広がっていくように支援していく必要がある。</p> <p>今回は第1層協議体についての質問があり、初めて第1層協議体の担当者から説明を行った。</p> <p>今後も第1層協議体の情報を含め市内各圏域の情報を有効に提供していく事で、さまざまな活動内容が理解されやすくなり、今後幅広い活動に繋がっていくと思われる。</p>